

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科都市工学専攻・修士1年

参加プログラム:IARU サステイナブルキャンパス交換学生 派遣先大学:シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先:5.民間企業(業界:シンクタンク)

派遣先大学の概要

シンガポール大学は、1905年に英国植民地政府の医学校として誕生した。その後シンガポールの独立など複雑な経緯を経て、1980年にシンガポール国立大学として発足、現在では3キャンパス(ケント・リッジ、ブキ・ティマ、アウトラム)、16学部、3RCE(Research Centers of Excellence)、23研究機関で構成されている。生徒数約3万7千人、教職員約1万人であり、これは東大とほぼ同規模である。2008年には、教職員で組織していたボランティア団体であったキャンパスグリーン委員会を環境持続可能オフィス(OES)として再編。大学として、地球温暖化、エネルギー、水資源、廃棄物、自然空間などのプロジェクトに取り組んでいる。

参加した動機

私は、東大内の環境問題に取り組む学生団体である環境三四郎に参加し、また東京大学サステイナブルキャンパス室(TSCP室)でアルバイトをさせて頂くなど Sustainable Campus Activity に取り組んできた。こういった活動は限られた人の中では積極的に行われているが、学内に広く浸透しているとはいえないのが問題だといえる。そこで多くの人を巻き込んでいく環境活動を得意とする IARU の他大学の取り組みを勉強し、東大の状況改善に貢献したいと考え、本プログラムに志望した。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

A4のエッセー(英語)一部と英語能力試験の結果等必要な情報の提出。私は大学院入学試験で受験した TOEFL ITP の結果を提出した。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの種類:トレーニングエンプロイメントパス

申請先:雇用主(シンガポール国立大学)が、MOM(人事省)に申請

手続きに要した時間:入国前1ヶ月前に書類提出・入国後2回、MOMのオフィスに出頭(滞在時間10~20分程度)

アドバイス:特になし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU海外旅行保険に加入した

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

担当教官へプログラムを説明し、了解を得た

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

工学部の Special English Lesson の夏期講習を受講

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地で全てのものが日本と同じように買ったので、むしろ洗面用具等大きなものは持っていなくてもよかったと感じた。商店やレストランなどでは、英語ではなく中国語で話しかけられることも多かったので、中国語を少しでも予習しておけばよかったと思った。

学習・研究について

① プログラムの概要

シンガポール大学の Office of Environmental Sustainability(以下 OES)にて6週間のインターンを行った。主な作業内容は、キャンパス内の各建物の消費電力、水量等の計測データから外れ値を取り除くプログラムの作成であった。また第六週にはキャンパス内の交通システム改善の提案として日本の大学における事例をレポートにしてまとめた。期間中、OES や学生団体が企画する環境イベントには積極的に参加した。さらに建築学科の大学院の授業を受講し、シンガポール内の環境配慮型建築の見学、理論の学習を行った。

② 学習・研究面でのアドバイス

作業の進め方、自分の場合ではプログラムの仕様について、は小まめに OES のスタッフの方とディスカッションして作

っていった。私の英語力の拙さが原因かもしれないが、僕がイメージしたものと相手が作ってほしいものがずれていることも少なくなかったので小まめな意見交換は重要だと感じた。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

シンガポール人をはじめとする東南アジアの華人、インド系の話者の英語は発音・イントネーションが日本で普通に学習するリスニング教材のものとはかなり異なり、またスピードが速いので慣れるまで聞き取りに苦勞した。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

前半 3 週間: チャイナタウンのホステル 10 人部屋 一泊30S\$ アジアを中心にいろいろな国の老若男女と一つの部屋で寝た。いろいろな文化の人とお話ができて楽しい反面、セキュリティの面で、常に気を使っていた。

後半 3 週間: 大学の寮 (Prince George Park Residential) 宿代不明 シングル、クーラーがついていなくてファンだけであったが夜は涼しかった。小さな商店と食堂が寮に付属しており普段の生活は大変便利であった。

見つけた方法: IARU の取り決めにより、受け入れ先である NUS がこれらの宿泊先を見つけ確保してくれた。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候: 直射日光は強烈であるものの、湿度が日本に比べると低いいためか日陰はそれほど不快でなかった。日中時折スコールが降っていたが、ずっとオフィスにいたためあまり傘を使う機会も無かった。大学もその他の場所もクーラーの設定温度が日本に比べ 3,4℃低いいため、寒さを感じるがあった。そういうときにはカーディガンなどを羽織った。

交通機関: MRT という電車とバスを用いて主要な場所へはどこへでも行ける。電車やバスの時刻管理は正確であったし、ネットで簡単に目的地までのルートを調べることができた。Taxi も日本に比べると割安なので、公共交通機関であると遠回りになってしまう場合などには使った。

食事: 小さなお店がいくつか並んで、共同のテーブルがあるフードコートスタイルの食堂が学内にも学外にもシンガポールのいたるところにある。学内のほうがやや低めに値段が設定されている。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は東京と同等、もしくはそれ以上に良好である。医療機関にはお世話にならなかったため分からない。

ホステルなどしばしば室内の空調の空気が悪いところがあったので、うがいをよくした。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃: 約 15 万円(東大より支給)

食費・交通費: 約 10 万円(東大より支給)

家賃: 不明(NUS より支給)

その他娯楽費お土産代等: 2,3 万円

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

上述の通り、航空賃、食費、家賃は両大学より支給

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

現地の日本人向けコンサルタントでの週末インターンをさせていただいた。また島内のいろいろなところの観光もした。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

OES のスタッフの方が、私が困ったことがあれば対応してくださった。例えば、SIM フリーの携帯電話の購入に付き合っていた。また昼食は OES のスタッフと一緒にとっていた。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は、貸し出しはできないが利用は可能だった。また HP より論文のダウンロードも可能であった。

ジム、プールは有料で利用することができる。私はプールを何度か利用した。PC はオフィスに備え付けられているものを利用可能であったが、もっぱら持参したノート型 PC を利用していた。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

東京大学の消費電力量等、環境負荷についてのマネージメントが、世界の先進的な大学のひとつである NUS と比較しても高いレベルであるということが分かった。しかし一方で、全学に対して意識の啓発を行ったり、イベントを行ったりする部分では、NUS のほうが面白い試みをいろいろと行っていた。

留学前は、NUS で行われているようなイベントを東京大学に移植することができるのではないかと考えていたが、実際にイベントに参加することで、こういった活動は学生や教職員の気質に大きく依存しているのではないかと考えるようになった。一般に欧米圏のほうが、こういったイベントを得意としているといわれているが、それはそれを可能とする文化的な下地があるからだろう。東京大学においては、無理にそういった部分に力を割くよりは、むしろ世界的に見てもハイレベルなマネージメントの一層の向上に努めるという選択肢が現実的かもしれない。

② 参加後の予定

NUS での作業を通じて向上した消費データの解析能力を TSCP 室の作業で活用したい。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

本プログラムの特徴は、各学生のバックグラウンドに応じて柔軟に活動内容を決定することができることである。ぜひ自分の専門分野、得意な部分がどのように、受け入れ先大学、東京大学のサステイナブルキャンパス活動に活かされるかを考えて、今までの交換留学生が考え付かなかったような活躍をしてほしい。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方 シンガポール

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。